

令和6年度 第1回山ノ内町総合教育会議

【開催日時・場所・出席者】

○日 時 令和7年3月13日（木） 午後6時00分から午後8時50分

○場 所 山ノ内町文化センター 3階ホール

○出席者

【構 成 員】

山ノ内町長	平澤 岳
山ノ内町教育長	竹内 延彦
山ノ内町教育長職務代理者	山本 均
山ノ内町教育委員	野竹 重範
山ノ内町教育委員	小坂 直矢
山ノ内町教育委員	船橋 紀子

【オブザーバー】

山ノ内町立山ノ内中学校長	山口 近
山ノ内町立東小学校長	湯本 文洋
山ノ内町立南小学校長	中村 まゆみ
山ノ内町立西小学校長	竹内 由紀

【関係職員】

山ノ内町副町長	久保田 敦
山ノ内町総務課長	古幡 哲也
山ノ内町総務課庶務文書係長	湯本 貴光
山ノ内町教育委員会教育次長兼こども未来課長	望月 弘樹
山ノ内町教育委員会こども未来課学校統合準備係長	山本 敏幸
山ノ内町教育委員会こども未来課学校教育係長	櫻井 美子
山ノ内町教育委員会こども未来課保育・幼児教育係長	前田 将久
山ノ内町教育委員会こども未来課教育指導主事	小林 妙子
山ノ内町教育委員会生涯学習課長	田村 清志
山ノ内町教育委員会生涯学習課文化創造推進係長	秋元 素江
山ノ内町教育委員会生涯学習課中央公民館長	小林 広行
山ノ内町教育委員会生涯学習課中央公民館長補佐	竹節 拓幸

傍聴者 7名 報道関係者 3社

1 開会

- ・教育次長の開会の宣告に続き、公開での開催のため傍聴者への注意喚起を行う。
- ・議長の名指までの間、進行を教育次長が務めた。

## 2 あいさつ

(平澤町長)

小学校統合については2年に及ぶ議論が行われる中で、今回、学校統合に向けた方向性を決めていきたいと思っている。

外国人旅行者の増加など日本は新しい時代を迎えていると感じており、先の見えない時代にこれから育つ子どもたちがどのような教育を受け世界で生きていくのか、今までとは違う教育の考え方が大事になってくる。誰もが経験したことのない時代の中で、試行錯誤、知恵を出しながら次の世代の子どもたちにどのような教育を用意できるのか大事な場であるので、本日の議論で山ノ内町が魅力ある町になるように協力体制を一緒に構築していきたいと思っている。

## 3 協議事項

- ・事務局から山ノ内町総合教育会議運営要綱に基づき町長へ議長を指名。

(町長)

本来であれば私が議長として進行するところだが、今日は竹内教育長に進行をお願いしたいがよろしいか。

- ・全員が同意。以後、竹内教育長が議長を務める。

(教育長)

本日は2つの議題で教育委員と町長のディスカッションをする予定。

前半は山ノ内町立学校の統合になるが、2年間改めて町民の皆様と学校統合について多くの議論を深めてきた。今年度は、山ノ内町立小学校適正規模適正配置等審議会を設置し、活発な議論をしていただく中、2月に答申を受け、3月の教育委員会定例会において、山ノ内町立学校適正規模及び適正配置に係る基本方針【改定版】を審議し決定したところである。この後、内容について説明させていただくが、忌憚のない意見やディスカッションをお願いしたい。

後半は教育行政全般にわたって町長と教育委員が自由に議論する場とし、テーマを設けず教育について日ごろ感じていることや考えなどを提案してもらい、議論していきたいと思う。

ディスカッションを始める前に、事務局から山ノ内町立学校適正規模及び適正配置に係る基本方針【改定版】及び今後のスケジュールについての概要説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・山ノ内町立小学校適正規模適正配置等審議会の経過、答申内容について説明。
- ・山ノ内町立学校適正規模及び適正配置に係る基本方針【改定版】について概要説明。
- ・「2 基本方針の中心にある考え方」は教育内容や地域と連携した学校づくりを観点に、統合に向けた考え方を示している。(資料1：4ページ)
- ・「3 基本方針の内容」では、前回の基本方針を尊重しつつ審議会からの答申を踏まえ考え方を整理している。(2)の適正配置の考え方では小学校3校は1校統合すること、また通

学の安全、施設整備に係る費用面、児童生徒の活動面積等を配慮し、義務教育学校が開校できる場所を設置場所とするとした。（資料1：5ページ）

- ・「4 基本方針に基づく今後の具体的な取組み」については、学校統合に向けた具体的な内容を示しており、（1）の統合学校のコンセプトは、町ならではの魅力あふれる教育を効果的に発揮できる小学校と中学校が一体となった義務教育学校を設置する。（2）の統合学校の設置場所については、義務教育学校の設置を前提に中学校敷地と西小敷地で施設規模、増改築費用、通学の安全性等を比較検討する中で、中学校敷地が望ましいと判断した。（3）の統合学校の教育カリキュラムでは、9年間切れ目のない学びの連続性や一貫性を踏まえた魅力ある教育カリキュラムの構築を進める。（4）の学校統合に向けた検討・調整では、課題整理や検討、調整を円滑に行うため、学校づくり準備委員会を設置する。（5）の統合学校の開校時期については、学校施設の整備や新たな教育カリキュラムの構築、学校の閉校準備期間等を踏まえ、令和12年4月の開校を目指すとした。（資料1：7ページ）
- ・今後の学校統合については、適正規模及び適正配置に係る基本方針【改定版】に基づいて検討準備を進めていくが、その中でどのような学校整備をしていくかという方針を、別添資料「山ノ内町立統合学校整備基本方針（案）」でまとめている。（資料2）
- ・統合学校整備基本方針（案）は、教育の方針や統合学校の目指す姿を示した基本構想と施設整備や通学等の考え方を示した基本計画で構成しており、今後は統合学校整備基本方針（案）をもって、住民への説明会等を開催し、意見を聞く中で内容を精査していきたい。

（教育長）

「山ノ内町立学校適正規模及び適正配置に係る基本方針【改定版】」は、教育委員会が決定した学校統合に係る基本的な考えで軸になるものとなる。「山ノ内町立統合学校整備基本方針

（案）」は中学校敷地で義務教育学校を設置するため、教育委員会がたたき台として提案するもので、今後、学校づくり準備委員会や住民意見等を聴取する中でブラッシュアップしていく。

先ほどの説明の補足、また学校統合に係る思いなどを教育委員から発言してほしい。

（委員）

学校統合については長年議論される中、ハードに係る議論が先走りになっていたが、ここ数年は教育の中身などソフト面についても議論され、ソフトとハードの両面を充実させたことで、義務教育学校による統合という方向にソフトランディングできたと思う。一度立ち止まって考えることも必要であったと感じている。単に小中一貫校ではなく義務教育学校としたことで、既存校舎を共有し有効利用できるという面ではとてもメリットがある。

適正規模適正配置等審議会も時間をかけて熱心に議論していただき、私も教育委員としてしっかりしなくてはいけないという思いを強くした。

（委員）

昨年4月から教育委員に着任し、学校統合についてあまり深く知らなかったが、教育委員の先輩方やいろいろな方と話す中で、町長から一度立ち止まって考えるきっかけをいただけたことは

とても感謝している。そのことで今回の基本方針の内容がバージョンアップし、地域の方々とブラッシュアップできたと思う。

(委員)

今年1年で教育の中身について皆さんと話し合いができ、保護者との懇談等を踏まえて地域の方々がどのように考えているのか知ることができた。結果として義務教育学校による中学校敷地での統合という形にまとまったと思う。

今回は建物先行型ではなく、教育の中身について深く話ができたと感じている。保護者からはもう少し内容を詰めても良いのではという意見もあったが、これから準備委員会を設けて教育の内容、カリキュラム等を先生方と一緒に検討していけたらいいという気持ちでいる。

(委員)

こどもが成人し義務教育から離れて時間は経つが、今回、学校統合について関わらせてもらい、小中一貫による義務教育学校を作っていくという、山ノ内町の歴史が変わっていく瞬間に立ち会えることができ光栄に思っている。

(教育長)

教育委員から一言ずつ学校統合について思いを述べていただいた。

町長からこの2年間を振り返り、今回まとめた基本方針を含め、今後に向けた考えなどを話していただきたい。

(町長)

教育委員の皆さんは、この1年間、学校統合について様々な意見が出される中で、解決策を見つけれたり皆さんが納得する落としどころを探したりと、とても大変な時期であったと思う。

当初ハード部分の計画だったところを一旦立ち止まり、ソフトに転換する話をしてからの1年間はしっかりと教育の中身の議論をしていただいた。義務教育学校の視察も行い、その中で理解を深めていただき方向性を出してもらったという認識をしている。先ほどの話にもあった歴史が変わり新しい時代にこれから入っていく。「統合は一旦立ち止まる」という方針を出したが、しっかりした教育の中身の方向性が出されたことで、結果として良い方向に向かったと思う。

学校統合にあたっては、町民全員の考えが一致することの難しさは重々承知しており、それでも最善案を見出して進めていかなければならないと思う。これから教育の中身など細かく詰めていくことがたくさんある中で、方向性がまとまったということは非常に嬉しく思った。

一点だけ開校時期がもう少し早くならないかと思ったが、学校の統廃合にはやはり時間がかかる。また教育の中身もしっかりと詰めていく必要があると説明を受け、開校を急いで中途半端なものを作ってもどうしようもないと納得したところである。

教育委員の皆様には、山ノ内町の教育の中身の議論を進めていただいたことに感謝したい。これからも教育委員と私の考えが同じ方向へ向いて、より良い教育をこどもたちに提供できるプラットフォームを作ろうという思いで引き続きお願いしたい。

(教育長)

今回、教育委員会が示した基本方針【改定版】の内容について、町長が考える方向性と同じであると背中を押していただいた思いである。

この基本方針を軸に、これからより教育の魅力が具現化するため、ぜひ力を入れてほしい内容や議論を深めてほしいことなどがあれば聞いていきたいと思うので、始めに町長から具体的な考えがあれば発言をお願いしたい。

(町長)

以前から児童1人当たりのスペースが足りていないと思っていたが、今回、義務教育学校として中学校の校舎を活用し小中学生と一緒に同じ建物を使うことで、十分なスペースを得られると認識している。学校統合に向けた動きについては心配していないので、これから教育の中身をさらに議論し深めてほしいと思っている。

放課後における子どもたちの居場所づくりに、町として力を入れていきたいと思っている。共働き世帯が増えてきている中で、学校が終わってから習い事やスポーツクラブ等に連れていくことが難しい家庭も多くなってきている。町の方でしっかりサポートしながら児童クラブやスポーツクラブ、習い事をミックスしたような放課後サポートを構築していきたい。都会では習い事などの場所や機会がたくさんあるが、地方はその選択が少なくなってしまうので、可能な限りいろいろな事ができる環境を作り、放課後の過ごし方でどのようなものがあつたらいいのか、子育てや教育の面でプラスになることを議論させていただきたいと思っている。特に解決策を持っているわけではないが、私の思いとして放課後を充実させたいと思っている。

(教育長)

町長から放課後における子どもたちの居場所に関する話があり、今後、統合により廃校となる小学校施設の後利用に関わる部分でもあるため、議論を進めていきたいと思う。先ほどの放課後サポートの話を含め、学校統合に向けて教育委員よりアイデア等があればお聞きしたい。

(委員)

町長の考えに賛成である。私が教員だった頃、スポーツ教室のようなものを体育主任であったため学校でまとめ役をやられた。夕方2時間ほど周りの教員にも手伝ってもらいながら実施したが、今の働き方改革のことを考えるととんでもないことをやっていたと思う。

中学校の部活も課題はあるが、欧米の先進的な国は地域に受皿があり、運動したい子どもたちは地域のクラブで運動して帰るということが行われており、当町も同様になればいいと思った。

コミュニティ・スクールという言葉は初めて聞いたとき、一体何をするのかわからなかったが、教育委員の研修でコミュニティ・スクールがテーマのグループ討議に参加した際、コミュニティ・スクールの意義について議論になった。地域の特性を生かした教育を地域の人と学校が作っていくという話になり、お年寄りを含めた経験をたくさん持っている地域の人たちを引っ張り出して、クラブ活動等を通じて人生の先輩である知見を子どもたちに教えたり知ってもらったりする働きかけが大事なのかと思う。

(委員)

町長提案の放課後サポートの話について、教育委員会の中でも小学校の跡地利用として西小学校に放課後の活動施設ができないかという話が出た。私のこどもは英語教室をオンラインで受けており、そのような形の支援もできれば児童クラブ等の時間を使って習い事ができると思う。運動に関してはスポーツクラブで面倒を見られるので、同じ施設で児童クラブ、習い事、スポーツクラブができると良い。可能であれば延長保育や緊急保育のようなものがあると良いと思う。

審議会に出席した保護者が会議に参加したくてもこどもを預ける場所がなく、緊急的な時に保育してもらえる場所があると良いと感じた。そこで西小校舎を活用して放課後活動などと統合した子育て支援センターができると良いのではと教育委員会内で提案したところである。

急な用事ができたときや共働き家庭で残業等により帰りが遅くなった際、夜9時ぐらいまで緊急的に預かってもらえる場所があれば、一番の子育て支援になると思う。前回の総合教育会議で、町長は移住者を増やしたいと言っていたが、人はいつ家を建て移住するかといえば、こどもが生まれたタイミングが多い。都会などに住んでいる人が、こどもが生まれて居住スペースが手狭になるのでどこに家を建てるかというときに、通勤のしやすさや住みやすさなどが重要になってくるが、最終的な決定権を持つのは母親になる場合が多い。母親が考えることは子育てしやすい環境というのが大事である。例えば学校から子育て・放課後支援施設までスクールバスで移動し、児童クラブや習い事、スポーツクラブに行っても良いとなれば選択肢が増え、すごい魅力になると思う。

(委員)

今の意見に賛成である。私の家は観光地にあり周辺は皆旅館業なので、繁忙期はこどもの面倒を見てもらえない。先ほどのような子育て施設があると予定がつけられるし、学校の跡地を利用していくのは良いと思う。

(委員)

コミュニティ・スクールについて、山ノ内町の特性を生かすというのは山ノ内町に住む人たちではないかと考えている。おいしいリンゴを作る農家やスキー場でスキーを滑る人も山ノ内町の人だと思う。地域の特性をこどもたちに伝えられる人をコミュニティ・スクールで活用し、自分の仕事や趣味などをこどもたちに伝えていき地域の方々が集えるようになればいいと思う。こども一人ひとりがいろいろなことを選択し、どんなことに興味を持つのかという選択肢を与えてあげることも大人の役目だと思うので、そのようなコミュニティ・スクールになれば良いと思う。

(教育長)

教育委員から具体的なアイデアも含め発言をいただいた。これから学校づくりを進めるにあたって、オール山ノ内でこどもたちが安心して楽しくワクワクしながら育ち学べる学校を皆さんと一緒に議論を深めて進めていきたいと感じた。

教育委員の発言を聞いた上で、改めて町長から学校統合についてコメントをいただきたい。

(町長)

教育委員の皆さんが私と同じ方向を向いているという意見を聞いてうれしく思う。旅館業などの人はこどもの居場所がない。その時にしっかり夜まで預けられる施設やいざという時に預けられるところがあると本当に良いと思う。

施設に預けるだけでなく習い事やスポーツなどができる場所にして、学校が終わった後はスクールバスで移動することで、送迎することをしないで済むという環境づくりができれば魅力的な町になると思っている。

一番子育てしやすく住みやすい町づくりをするためには、こどもをいつでも預けられ、放課後も習い事やスポーツ教室があり、さらにはこどもが病気になった時も保育を受けることができ、仕事を休まずに行ける場所があるべきと思っている。

西小学校の利活用案も出されたが、どのような機能があればいいのかもっと議論を深めていき、使い勝手のいいアフタースクールというものがしっかりできるといいと思っている。

(教育長)

山ノ内町のこどもたちのための学校統合をみんなで目指し、多くの方の力をお借りしたいと思っている。長きにわたって地域の皆さんからいただいた様々な思いや意見をしっかりと踏まえて、今日から新たなスタートが切れると思っている。

前半部分は学校統合を中心にいろいろ発言していただいたが、後半部分はこれからの山ノ内町の子育てや教育全般の広い視野でご意見をいただきたい。

(委員)

山ノ内町は雪が多い地域にも関わらず、学校行事のスキー教室が1回しか行われていない。回数が減ってしまった理由はいくつかあるが、スキーが好きな私としてはとても寂しく思う。

今スキー場では多くの外国人が見受けられ、スキー教室の休憩中にこどもたちが習った英語で外国人と交流する機会もできるのではないかと思う。

また、スキー教室を実施するにあたって保護者負担をできるだけ軽減又は無償にできるような条件整備を行ってもらい、スキー教室の回数を2回にしてもらいたいと思っている。町長はオリンピックでありスキー関係のネットワークを持っていることから、スキー教室の在り方などについて考えを聞かせていただきたい。

(町長)

町民の方からスキー教室の回数が減っているとと言われて、教育委員会や学校の先生に理由を聞いた際、働き方改革などの理由があり、町から無理強いできない難しい問題と思っている。

世界中から観光客が雪を目当てに日本へ来ている。東南アジアは雪が降らないため、その人たちからしてみたら喉から手が出るほどいい素材である。我々にとって雪は邪魔なものであり、雪に対する価値というものがそれぞれ違うが、私自身はスキーのおかげで世界が広がり友達ができた。町のこどもたちには最低限スキーが滑れるようになってほしいと思う。現実として学校ができることや保護者の負担などを考えたとき、いろいろな手を打っていく必要があると思う。

例えば、スキーメーカーに協力してもらい年間5,000円を払えばスキーを借り放題で使用でき、サイズ交換も自由にできるという形がとれば、保護者のスキー購入に係る負担を減らすことができる。ただ、町内のスキー場は民間企業が運営しており、レンタルの拠点を作るなどの調整が難しいため、スポーツクラブをレンタルの拠点としてスキーやスノーボードを格安にレンタルし、子どもたちが自由に滑ることができるような環境作りができないかと思っており、今後は学校の負担を増やさずスキー教室の代わりになるようなものを検討したいと考えている。

(委員)

町長の話はレッツスキーと似たような部分であると思うが、私の考えは現場の教職員に苦勞を掛けるが、こどもは行事の中で育っていくので学校行事としてスキー教室をやってほしい。

運動会や音楽会などを通していろいろ議論したりやりたくない仕事をやったりする中で、我慢する気持ちや議論の中で譲ったり譲られたりなどお互いに協力し合っていく心が育まれる。

私がスキーのインストラクターをやった時、普段スキーを滑っていないこどもが何人もいたが、スキー教室で滑れるようになるのですごいと思ったことがあった。子どもたちのエネルギーはとてもすごく、これからどんどん発達していき体感のバランスも完成する時期でもあるため、スキー教室の回数を増やすような条件整備をしてほしいと思っている。

(教育長)

そのほかに自身の子育ての経験などから、この機会に町長へ話したいことがありましたら発言をお願いしたい。

(委員)

不登校児童生徒について、私のこどもが小学4年生の時に不登校になった。一番つらいのは本人だと思うが、親としては学校に行ってほしいという思いが強くあり、学校に相談し最初は保健室へ登校していた。冬になると具合の悪い子が増え保健室に居場所がなくなってしまったため、特別支援学級に通うようになった。当時の特別支援学級の先生は専門的な知識があり、こどもとすごく打ち解けるまでの関係となる中で、卒業までには普通教室で授業を受けられるようになった。そのことから特別支援の専門的な知識を持つ先生の人材を増やしていただきたいと思う。

(教育長)

今の学校現場は先生不足といわれており、また専門性の高い人材やスクールソーシャルワーカーも含め、県の予算では配置が限られている状況である。山ノ内町は他の自治体よりも特別教育支援員を町費で比較的多く配置していると感じる。

専門性が高い人材を町費で配置してほしいということだが、町長の考えはいかがか。

(町長)

私自身不登校の現状について詳しくないため非常に参考になった。不登校の子どもたちの居場所づくりとして教育支援センターを進めているが、必要な人材や使い勝手等もこれからアップグレ



ードしていく必要があると思っている。引き続き教育委員や学校の先生と一緒に議論しながら町としてサポートしていきたい。

(委員)

A L Tに関して令和6年度から各学校へ配置していただき町長に感謝したい。近隣市町村からもうらやましいという声が聞こえてきている。そこでもう少し英語や数学などの専科教員の配置に力を入れていきたいので、増員に係る予算を増やしていただきたい。

(教育長)

町長の考えでA L Tを増員していただいた。兼ねてからI C TやS T E A M教育といったことに関心があると思うが、専科教員の取り組みについて町長はどのように考えているか。

(町長)

専科教員については力を入れていきたいと思っている。A L Tの配置は教育長との話し合いの中で強引に押し進めた部分もあったが、逆に教育委員から要望を挙げていただければ、教育長と相談しながら未来のこどもたちへの投資という部分でどんどんやっていくべきと思っている。

ふるさと納税の寄付額が増えてきており、そうした財源を活用しながらできるところから押し進めていきたいと思っているので、こどもたちのためになることであれば現場からどんどんアイデアを出していただきたい。

(委員)

子育て世代として今の教育の感想や思いを伝えたい。私の家は小学3年生と保育園年長のこどもがおり、A L Tを各学校に配置していただいたことで、こどもが家でも片言の英語を使うようになり、英語に対する抵抗感がなく家庭の中でも英語が当たり前環境になっている。上の子が英語に興味を持つことで、下の子も英語を覚えるようになり相乗効果がすごくあると感じた。

E S Dも、通常は地元農家と一緒にリンゴを作り、収穫したリンゴを家の方と一緒に食べるとかで終わるところを、町の特性を生かして湯田中駅前ですら外国人観光客にリンゴを販売し、「D o y o u l i k e a p p l e s ?」と小学3年生のこどもが外国人に物怖じせずに話しかける姿を現場で見るとすごいことだと感じた。

私が小さかった頃は外国人と接する機会が少なく今でも少し抵抗があるが、今のこどもたちは英語や外国人と接することに物怖じしない教育環境が当たり前になっていて、統合学校が開校する5年後にはさらにレベルアップしていると思う。いろいろな教育環境で様々な考えを持つこどもたちになったり、どんどん成長が早まったりしているので、大人たちが置いて行かれることがないように、これから良い仕組みを町長と一緒に作っていききたいと思う。

(町長)

私もこどもたちが湯田中駅でリンゴを販売している姿を見た。外国人観光客もニコニコしながらこどもたちからリンゴを受け取っている光景は素晴らしいと思った。

ALTを増員しようと思ったのは、日々の生活の中で子どもたちが英語に触れてほしかったので、今回しっかり機能して良かったと思っている。

私にとって英語は、日本語と同じぐらいなじんでおり、英語を一所懸命考えて訳すものではなく、突発的に言葉が出るようになればいいと思っている。習うよりも慣れるということが大事で、今後、予算が許す限りALTをさらに増員していくことも考えている。

引き続き先生方と話し合いながら、学校統合を待たずにできることはすぐにでも進めていきたいと考えているので、どんどん意見を出してほしいと思う。

(教育長)

町長より現場からも意見を出してほしいという発言があったので、オブザーバーとして参列している校長先生からこれまでの議論の感想やアイデア、伝えたいことがあれば一言ずつ発言をお願いしたい。

(山ノ内中学校長)

今日は多岐にわたり議論が行われる中で、中学校でいえば部活の地域移行は、これから急ピッチで進めていくことが求められている。その中で今日の議論にあった放課後の在り方について、一緒に考えていく必要があると改めて思った。1個の問題を単独で考えるのではなく、同時に他のことも一緒に考えるという視点で進めて行けば非常に良いと気づかせてもらった。

また、専科教員の話もあったが、中学校では数学専科の先生を探しているが見つからない状況ではある。その先生がいれば小学校にも行き両方で授業をすることも可能だと思う。そうした雇用をすれば小学校も中学校もうれしいと思うし、条件整備していけば今からできることがたくさんあると感じたため、5年後を待たずに今からやっつけていこうと改めて思った。

(西小学校長)

スキー教室の話があったが、西小学校はよませスキー場がすぐ近くにあり、天気の良いと子どもたちはスキーを滑りたいと言っている。小学生はリフト無料券をもらっているが、スキー教室の時は使えず、体育の時間にスキーをしようと思ってもリフト代がかかってしまうため行けないが、西小学校は10分程度でスキー場に行けるため、学校ならではの活動としてやっていきたいという思いもある。

2月にスキー教室を行った際、不登校の子どももスキー教室に参加した。みんなゴーグルをしてスキーウェアを着ているので、誰かわからないという安心感があったためと思うが、お昼休憩はみんなと食事がとれないため一旦家に帰り、午後のスキー教室にまた戻って参加した。その子はノート3ページにわたりスキー教室がすごく楽しかったと書いてくれた。すぐには難しいが子どもの支えとなって、次の学校生活につながるのではと思った。

西小は自然の中で学ばせてもらっており、1・2年生は緑や雪の中で思う存分遊び、3・4年生は地域の特産物であるリンゴや前坂大根作りをする中で地域の方と交流させていただき、高学年では作物が作られるための水の学習などをするることによって、地域愛が着々と育ってきている

ことを感じる。今後も学校でできることをしっかり行い、オール山ノ内で取り組みを大事にしていきたいと思う。

(東小学校長)

令和4年度から小学校統合準備委員会をきっかけに学校統合について関わってきた。今年、適正規模適正配置等審議会でもう一度議論することとなりどうなるのかと感じていたが、最後の審議会でも話をした際、議論が深まり決して無駄な時間ではなかったと思っている。この深い議論により学校統合についてはしっかり根が張り、これからどうやって枝や葉を伸ばしていくかということになるが、このような機会をいただけたことは私自身よかったと思っている。

東小周辺は外国人が当たり前歩いているエリアであり、E S Dの活動で昨年度はA L Tの先生と一緒に歩いて「Y O Uは何しに山ノ内へ」ということで尋ねながら歩いた。今年は6年生が山ノ内町に来る観光客に対してスタンプラリーを行った。パンフレットは英語だけではなく中国語表記もあり、こどもたちはどんどん世界に目が向いていると思う。

間違えてはいけないこととして日本語も大事である。英語ができて日本語ができなくていいという理論ではなく、日本語ができてさらに英語もできればいろいろと関わられるし、国際化やインバウンドということで日本自体が新しい時代になってきており、山ノ内町も新しい時代を迎えていると思う。

(南小学校長)

昨年度から統合に関わる議論に参加している。南小は一番規模が小さい学校だが、こどもたちは地域の方と交流を重ね、見守られ支えていただきながら毎日楽しく学校に通っている。

今日、学校統合の方向性が決まりこれからようやく未来に向けた良い学校作りを、みんなでもう一度考えていく時だと思っている。

南小もE S Dをととても大事にしており、6年生は米作りで地域ブランド米である雪白舞に魅力を感じ、地元企業とコラボし新しい商品開発・販売をした。

A L Tの配置について、こどもたちがA L Tの先生と日常的に関わることで異文化を学び、英語の抵抗もなくって表現する方法の一つを手に入れたということで、とても元気で楽しく英語を学ぶ環境になっている。先日6年生が「My B e s t M e m o r y」として、6年間の思い出を英語で全校にスピーチしたいとなり、急遽全校で英語のスピーチを聞いた。昨年まではなかった様子を今年見ることができ、A L Tの効果があつたと実感している。

学校統合は、3小学校が1校に統合し中学校敷地に義務教育学校というのが決まり、これまで以上に小中学校がつながってみんなでより良いものになるように、こどもたちや職員の交流も来年からさらにパワーアップして取り組んでいきたいと思うので今後もご支援をお願いしたい。

(教育長)

校長先生方から具体的なエピソードや率直な思いを聞かせていただいたが、これを受け町長より発言をお願いしたい。

(町長)

校長先生方のお話が聞けてすごくよかった。各学校それぞれ特色や地域のカラーがあり、これを聞いてしまうと統合しなくとも良いのではと思ってしまうほど素晴らしい取り組みだと思う。そうはいつても次の世代を見据えて、皆さんが培ってきたそれぞれの地域特性の良さというものを、学校統合していく中でどうやって一緒にして山ノ内町の地域愛につなげていくなど、次のステップとして考えなくてはならないと感じた。

西小のスキーの関係については少し検討したい。できるかわからないがすぐにアクションを起こせるものはよりいい形にしていきたいと思う。

学校統合に関わらず、子どもたちがこの地域での教育と地域の人たちのコミュニケーションがこれからも深まっていくといいなと思うので引き続きよろしくお願ひしたい。

(教育長)

私も改めて校長先生方の話を聞き、これから向かうべき山ノ内町の学校統合は、それぞれの地域の良さを町全体で全ての子どもたちに味わったり楽しんだり学び深めたりすることを目指したいと感じた。何かを平準化するというのではなく、それぞれの学校で根付いてきた文化や大切な部分が継承されている。

今回、義務教育学校ということで中学校も閉校となり小中学校全てが一旦閉じることで、それぞれの良い部分を結合し、全ての子どもたちに山ノ内町の地域豊かな資源を享受できるような学校ができたらいいなと感じた。

終わりの時間となることから、教育委員から発言をいただき、最後に町長から子どもたちや保護者、町民の皆さんに向けてのメッセージも含めて一言をお願ひしたい。

(委員)

今日は中身のある議論をしていただき感謝したい。校長先生方からも今まで持っていた自分の思いを述べていただいたし、町長からも忌憚のない意見を聞けてとても良い機会だったと思っている。

(委員)

皆が山ノ内町立学校の統合について、同じ方向を向いていこうということが今回の会議ですごく感じられたので良かったと思う。

(委員)

今日は町長と向き合って話ができて大変良かった。統合だけでなくこれからの方針などいろいろな話をする中で、同じ方向を見ていると感じた。また、統合前からでもできることをやっいていこうという前向きな意見をいただいたことから、教育委員会でも話し合いながら学校教育、子育て支援に関してより良い環境が作れたらと思った。

(委員)

先日、東小で「学校かくれんぼ」という企画を見学した際、こどもたちがとても楽しんでいました。南小では英語の授業を見学し、こどもたちが普通に英語を話していることに驚いた。先生方がとても頑張っているのも、こどもたちもすごく楽しそうにしていると思う。

E S D交流会でこどもたちと話をしたとき、最後の質問で「山ノ内町は好きですか」と聞いたらみんな手を挙げてくれ、山ノ内町の未来は明るいなと感じた。そんな環境を作ってくれる町長に感謝したい。

(町長)

今日はいろいろな意見をいただき感謝している。統合については、一旦立ち止まるところから議論が行われる中、教育委員は地域の代表という立場もあり大変だったと思う。教育員会事務局も非常に苦労しながら議論の場を作り、意見をまとめ大変お疲れだったと思う。

2年間議論してきた中で、校長先生、教育委員、教育長、町執行部も含めて同じ方向を向いて、5年かかる学校統合のプロセスをより良いものにするための方向性が見えてきたと思う。

学校統合の考えは、町民全員が一致していることではないため、様々な場面でいろいろな意見が出ると思うが、我々立場あるものとして責任をもって、こどもたちをより良い教育環境で育てられるよう議論をしっかり行い、良いものを作っていきたいと思っている。

皆さんからはいろいろな知恵やアイデアを出していただき、令和12年度の統合よりも前にできることは取り組んでいきたい。また、放課後対策についてもプラットフォームというものをしっかり整備しながら、より良い子育て環境などを一緒に作り上げていきたい。

この大変な議論を時間かけてまとめ上げていただき、いい方向に向けたと思っているので、さらにブラッシュアップできるよう引き続き協力をお願いしたい。

(教育長)

私からもこれまで統合に関わっていただいた方や温かくも厳しく見守っていただいた町民の皆様に改めて感謝申し上げたい。

今日から次のスタートを切ることで、事務局もしっかり気持ちを引き締めて新たに取り組んでいきたいと思う。これから山ノ内町一丸となって良い方向に進んでいくことを願いながら、事務局も一丸となって頑張っていくので、今後とも温かく見守っていただきながら、ご指導をいただきたいと思う。

(3) その他

特になし

4 閉会 (19時50分)